



株主のみなさまへ 中間期のご報告

2023年4月1日 ▶ 2023年9月30日

株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

2024年3月期第2四半期連結累計期間(2023年4月1日から2023年9月30日、以下、「中間期」)の概要をご報告申し上げます。

当中間期の業績について

当中間期の売上高は、主として国内事業における価格修正の実施等により、前年同期を96億円(1.1%)上回る8,471億円となりました。

営業利益は、国内では物価上昇に伴う消費抑制を受けた減販等の影響を価格修正やコストダウン等で補いましたが、海外での経済回復の遅れに伴う需要低迷やパルプ市況の悪化により、前年同期を16億円(△3.9%)下回る388億円となりました。経常利益は、外貨建債権債務の評価替えによる為替差益等の減少により、前年同期を94億円(△15.6%)下回る508億円となりました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期を63億円(△16.6%)下回る316億円となりました。

当社グループの海外売上高比率については前年同期を4.1ポイント下回る34.4%となりました。

中間配当について

当社は、各事業年度の業績の状況と今後の経営諸施策に備えるための内部留保を総合的に勘案しつつ、株主の皆様へ可能な限り安定配当を継続することを基本方針としています。当期の中間配当金につきましては、当期の業績の状況並びに今後の事業環境等を総合的に勘案し、前年同期と同様、1株につき8円と決定させていただきました。

2023年11月

経営理念

革新的価値の創造

未来と世界への貢献

環境・社会との共生

存在意義(パーパス)

森林を健全に育て、

その森林資源を活かした製品を創造し、

社会に届けることで、

希望あふれる地球の未来の実現に向け、

時代を動かしていく

中間期の連結業績ハイライト

売上高	8,471億円	前年同期比 1.1%増	▲
営業利益	388億円	前年同期比 3.9%減	▲
経常利益	508億円	前年同期比 15.6%減	▲
親会社株主に帰属 する四半期純利益	316億円	前年同期比 16.6%減	▲



王子ホールディングス株式会社
代表取締役社長

磯野 裕之

中間期のセグメント別の営業の状況

生活産業資材

段ボール原紙・加工、白板紙・紙器、
包装用紙・製袋、家庭紙、紙おむつ

売上高	3,991 億円	前年同期比 2.4%増	構成比 (%)	40.0
営業利益	56 億円	前年同期比 429.8%増	構成比 (%)	14.3



国内事業では、段ボール原紙・段ボール、包装用紙、家庭紙等、多くの品種において物価上昇に伴う消費抑制により販売数量は減少しましたが、価格修正の実施により、売上高は前年同期に対し増収となりました。また、紙おむつの売上高は、子供用おむつは前年同期並み、大人用おむつは前年同期に対し増収となりました。

海外事業では、段ボール原紙は、2021年10月に稼働した新マシンの稼働率向上により、東南アジアで販売数量は増加しましたが、市況の悪化により、売上高は前年同期に対し減収となりました。段ボールは、オセアニアで価格修正を実施したものの、東南アジアにおける需要低迷により、売上高は前年同期に対し減収となりました。紙おむつは、マレーシアやインドネシアでの拡販により、売上高は前年同期に対し増収となりました。

機能材

特殊紙、感熱紙、粘着、フィルム

売上高	1,138 億円	前年同期比 5.8%増	構成比 (%)	11.4
営業利益	44 億円	前年同期比 39.1%減	構成比 (%)	11.2



国内事業では、特殊紙は戦略商品の拡販を進めたほか、価格修正を実施しましたが、電子機器の需要低迷を受けて剥離原紙・剥離紙の販売数量が落ち込み、売上高は前年同期に対し減収となりました。感熱紙は2022年上期に世界的な物流の混乱に伴う顧客の在庫積み増しがありましたが、2022年下期より反動を受け、販売数量・売上高ともに前年同期に対し減少しました。

海外事業では、感熱紙は需要低迷、金利上昇等による在庫削減の動きが顕在化し、販売数量は前年同期に対し減少しましたが、価格修正の実施等により、売上高は前年同期に対し増収となりました。

資源環境ビジネス

パルプ、エネルギー、植林・木材加工

売上高	1,805 億円	前年同期比 11.5%減	構成比 (%)	18.1
営業利益	187 億円	前年同期比 36.1%減	構成比 (%)	47.6



国内事業では、パルプ事業は、溶解パルプの販売が堅調に推移し、売上高は前年同期に対し増収となりました。エネルギー事業は、2022年12月から徳島県でバイオマス発電所が新たに稼働したことにより、売上高は前年同期に対し増収となりました。

海外事業では、パルプ事業及び木材事業は、パルプ市況の悪化と需要低迷に加え、ニュージーランドのPan Pac Forest Products Ltd.が2023年2月にサイクロン被害を受け、製造設備等が復旧途上であることにより、売上高は前年同期に対し減収となりました。

印刷情報メディア

新聞用紙、印刷・出版・情報用紙

売上高	1,490 億円	前年同期比 11.1%増	構成比 (%)	14.9
営業利益	71 億円	前年同期比 —	構成比 (%)	18.2



国内事業では、新聞用紙、印刷・情報用紙は需要の減少傾向が継続しているものの、価格修正の実施により、売上高は前年同期に対し増収となりました。

海外事業では、江蘇王子製紙有限公司において、ゼロコロナ政策終了後の経済回復が鈍く、売上高は前年同期並みとなりました。

その他

商事、物流、エンジニアリング、不動産、液体紙容器 他

売上高	1,554 億円	前年同期比 2.6%減	構成比 (%)	15.6	営業利益	34 億円	前年同期比 19.9%減	構成比 (%)	8.7
-----	----------	----------------	---------	------	------	-------	-----------------	---------	-----

(注)セグメント別の売上高及び営業利益構成比(%)は、調整額(内部取引に関わる調整額等)を除いて計算しています。

財務データ概況

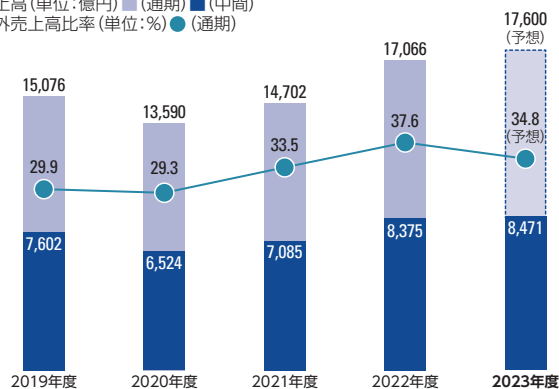
財産及び損益の状況の推移

区分		2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度(予想)
売上高	(百万円)	1,507,607	1,358,985	1,470,161	1,706,641	1,760,000
営業利益	(百万円)	106,125	84,793	120,119	84,818	82,000
経常利益	(百万円)	101,289	83,061	135,100	95,008	90,000
親会社株主に帰属する当期純利益	(百万円)	58,181	49,635	87,509	56,483	57,000
1株当たり当期純利益	(円)	58.78	50.13	88.35	57.00	57.51
1株当たり純資産	(円)	699.12	758.28	859.29	945.27	1,044.87

(注) 2023年度通期の予想は第2四半期決算短信発表(2023年11月7日)時点のものであり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

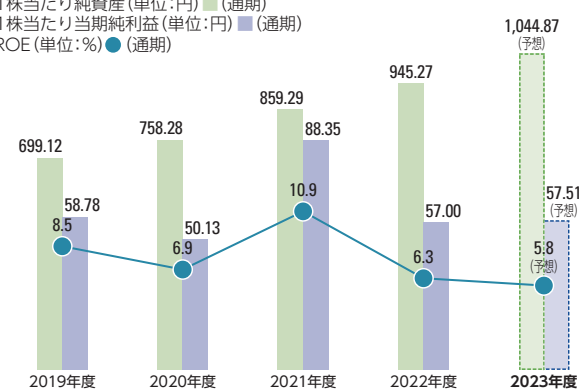
売上高・海外売上高比率

売上高(単位:億円) (通期) (中間)
海外売上高比率(単位:%) (通期)



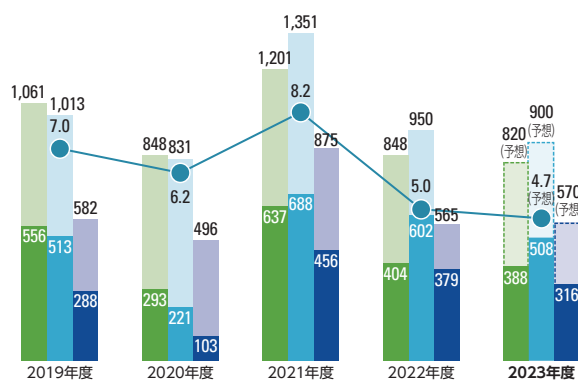
1株当たり純資産・1株当たり当期純利益・ROE

1株当たり純資産(単位:円) (通期)
1株当たり当期純利益(単位:円) (通期)
ROE(単位:%) (通期)



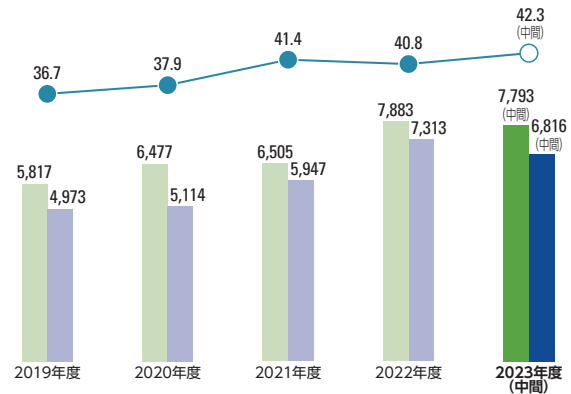
営業利益・経常利益・親会社株主に帰属する当期純利益・売上高営業利益率

営業利益(単位:億円) (通期) (中間)
経常利益(単位:億円) (通期) (中間)
親会社株主に帰属する当期純利益(単位:億円) (通期) (中間)
売上高営業利益率(単位:%) (通期)



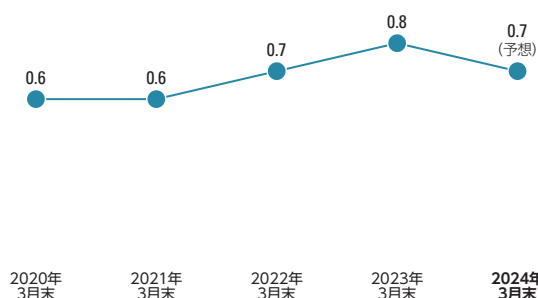
有利子負債・純有利子負債・自己資本比率

有利子負債(単位:億円) (通期) (中間)
純有利子負債(単位:億円) (通期) (中間)
自己資本比率(単位:%) (通期) (中間)



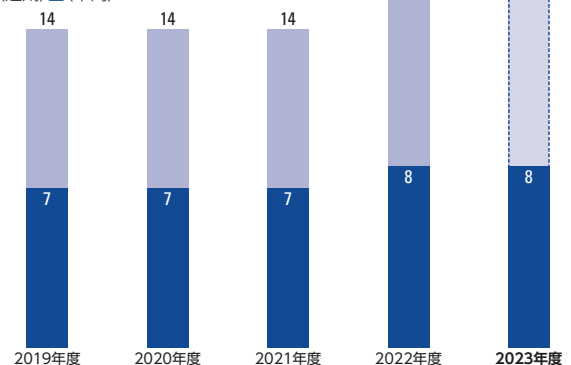
ネットD/Eレシオ(単位:倍)

ネットD/Eレシオ=純有利子負債/期末純資産



1株当たり配当金(単位:円)

(通期) (中間)



2022-2024年度中期経営計画概要

2022-2024年度中期経営計画では、2030年に向けた「長期ビジョン」のマイルストーンとなる経営数値目標を設定しています。基本方針「成長から進化へ」のもと、「環境問題への取り組み」「収益向上への取り組み」「製品開発への取り組み」を適時確実に遂行し、経営数値目標の達成を通じて企業価値の向上を図ります。

2024年度経営数値目標	
連結営業利益	1,500億円以上
連結純利益	1,000億円以上 (安定的に1,000億円以上を継続)
海外売上高比率	40% (将来的には50%を目指す)
ネットD/Eレシオ	0.7倍維持 (2022年3月末 0.7倍)

重点取り組み項目

- 環境問題への対応の重要性の高まりに対し、「環境ビジョン2050」「環境行動目標2030」のアクションプランを実行。
- 保有設備を有効活用し、さらなる生産体制再構築を推進。
- さらなる国内有望事業および海外事業の拡充に向け、戦略投資やM&A等を実施。
- グリーンイノベーションの各テーマ「木質由来の新素材開発」「メディカル&ヘルスケア領域への挑戦」「環境配慮型紙素材の開発」について、素材・製品開発に留まらず、早期事業化への取り組みを加速。

2022年度実績と2023年度注力施策

● 産業資材事業 ● 生活消費財事業 ● 機能材事業 ● 資源環境ビジネス ● 印刷情報メディア事業 ● 研究開発他

収益向上への取り組み -Profitability-

主な2022年度実績

- 4月 王子製紙苫小牧工場にて王子マテリア名寄工場から移設した板紙製造設備稼働開始
- 7月 マレーシア/9拠点目の段ボール工場営業運転開始
- 8月 ベトナム/6拠点目の段ボール工場営業運転開始
- 9月 東南アジア・中国に事業拠点を有する高機能ラベル印刷加工会社 Adampakグループを取得
- 1月 マレーシア/10拠点目の段ボール工場営業運転開始
- 2月 王子コンテナ宇都宮工場を移転し、栃木工場として営業運転開始

主な2023年度注力施策 *将来のものは予定時期

- 5月 イタリアにおける液体紙容器事業会社IPI社を取得
- 6月 インド/5拠点目の段ボール工場建設を決定(2024年10月稼働予定)
- 7月 王子エフテックス滋賀工場にて極薄OPPフィルムマシンを増設し、営業運転開始
- 9月 ベトナム/7拠点目の段ボール工場営業運転開始
- 10月 包装・包装廃棄物規制に関連したリサイクルおよび脱プラスチックの分野で最先端の原材料加工技術を保有するWalki社(本社:フィンランド)の全株式を取得する株式譲渡契約を締結
- 1月 国内フィルター生産拠点稼働
- 1月 ドイツにおける感熱紙生産設備増強

Pick Up

● フィルム事業 生産設備増設

電動車のコンデンサ用フィルムの需要急拡大に対応するため、2023年・2024年に生産設備を増設します。



王子エフテックス滋賀工場 新フィルムマシン

●●● 会社取得・工場建設による事業拡大

重点取り組み事項の1つである、戦略投資やM&A等を実施し、事業拡大を進めています。



IPI社(イタリア)と液体紙容器製品



Walki社(フィンランド)と脱プラスチック製品(リサイクル可能バリア性紙包装資材)

環境問題への取り組み -Sustainability-

主な2022年度実績

- 6月 植林地取得 (ニュージーランド/ラウンドヒル)
植林地取得 (北海道/白糠)
- 8月 王子ネピアにて使用電力を太陽光発電で賄う江戸川倉庫を新設
- 9月 植林地取得 (ニュージーランド/インバカーギル)
- 10月 植林地取得 (北海道/黒松内)
- 11月 インドネシアの植林会社PT. Korintiga Hutaniを連結子会社化

- 12月 徳島での伊藤忠エネクスとの合弁バイオマス発電所営業運転開始

主な2023年度注力施策

- 5月 王子エフテックス江別工場の石炭ボイラを停止
- 9月 王子コンテナ桤木工場における太陽光発電設備稼働開始

Pick Up

● 国内外での植林地拡大

環境行動目標2030達成に向けた取り組みの1つとして、国内外で植林地を拡大し、CO₂純吸収量拡大を進めています。



北海道/白糠



ニュージーランド北島/Pan Pac社ラウンドヒル
(牧草地を植林地へ転換予定)



王子コンテナ桤木工場の太陽光パネル
(発電した電力は段ボール生産等に使用)

●● 太陽光発電設備の稼働

再生可能エネルギー利用向上を進めるべく、太陽光発電設備の設置等について継続的に取り組んでいます。

製品開発への取り組み -Green Innovation-

主な2022年度実績

- 4月 植物由来のポリ乳酸ラミネート紙開発
- 5月 バリア性紙素材「SILBIO BARRIER」を使用した包装材がナカバヤシ社のコーヒーパッケージに採用
- 7月 環境配慮型コップ原紙開発
- 10月 細胞培養基材「CellArray」発売開始
セルロースナノファイバー/天然ゴム複合材開発
- 12月 環境に配慮した遮熱ウィンドウフィルム開発
- 2月 セルロース樹脂ペレット開発

主な2023年度注力施策 *将来のものは予定時期

- 5月 素材・科学分野に特化したベンチャーキャピタルファンドへの出資
- 1月 乳酸～ポリ乳酸合成のベンチプラント運転開始(王子パッケージング本社・東京事業所ビル内)

Pick Up

● 環境に配慮した脱プラスチック製品の開発



高透明紙を使用した中身が見える
紙製バリア素材「シルビオクリア」



紙製トレー容器「KIRIGAMI」
(寺岡精工との共同開発)



紙製プリスターパック
(プラスチックフィルムを使用せず商品を固定・保護)

グリーンイノベーションによる新たな価値創造

木質由来の新素材 ～パルプの新たな価値を創造～

木質資源を原料とする“バイオものづくり技術”の開発

石油由来の燃料やプラスチックをバイオマス由来に置き換える脱炭素化社会に貢献するため、持続可能な森林経営で得られる木材を活かした「木質由来の新素材開発」を進めています。さまざまなバイオものづくり^{※1}の基幹原料となる「糖液」および、糖液に発酵法を組み合わせることで得られるポリ乳酸などの「バイオマスプラスチック」や、航空業界が注目している「持続可能な航空燃料(SAF^{※2})」をはじめとした、基礎化学品製造に利用できる「エタノール」は、ニーズの拡大が見込まれています。

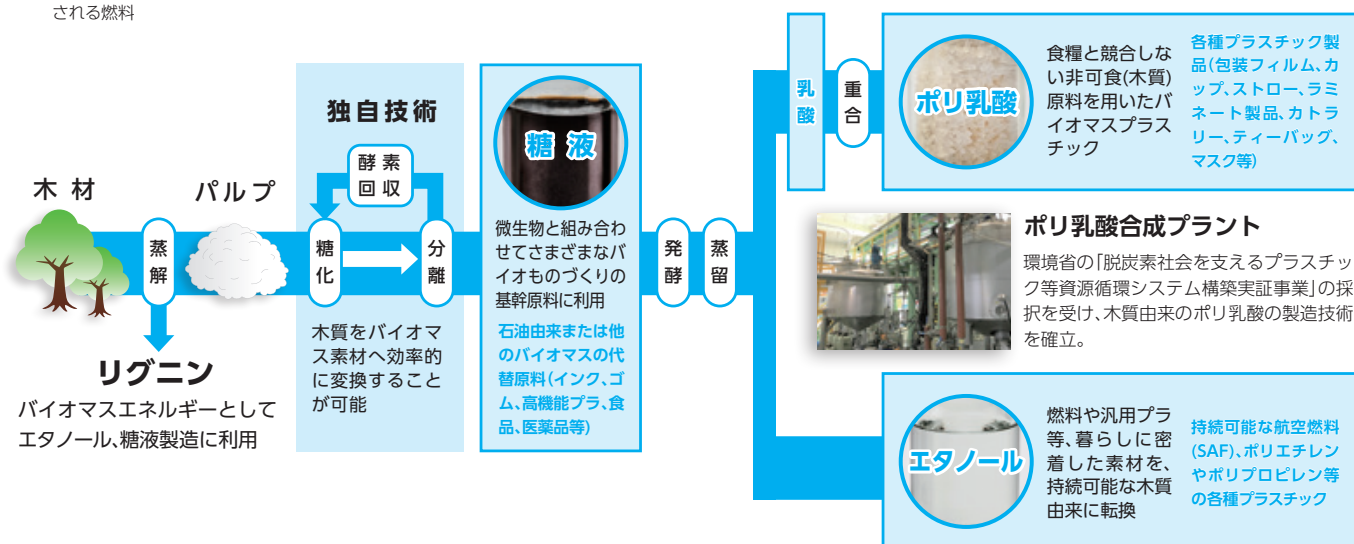
木質由来エタノールについては、2018年までNEDOプロジェクト^{※3}に採択を受け、製造技術を磨いてきました。木質由来糖液についても、独自技術の開発に成功し、現在は、サンプルワークを実施し、評価をいただいています。

2024年度後半の稼働予定でパイロット製造設備を導入(王子製紙米子工場内)し、実用化を見据えたユーザーに対して、大量のエタノール・糖液提供を実施するとともに、継続した技術改良を行い、将来の事業化(2030年時目標:エタノールとして10万kL供給)に向けた取り組みを加速していきます。

※1 バイオマス由来の糖を原料に、有用物質の生産性を高めた微生物(スマートセル)を用いて、プラスチック、ゴム、繊維、燃料などを産生するものづくりのこと。

※2 Sustainable Aviation Fuel(持続可能な航空燃料)航空業界の脱炭素の切り札とされる燃料

※3 セルロース系エタノール生産システム総合開発実証事業(2015年4月-2018年3月)



社会の変化に応じたセルロースの活用

社会の変化やユーザーの要望に応じ、セルロースナノファイバー(CNF)からパルプまで、セルロース素材を効果的に活用する開発を進めています。

CNFの市場拡大のための開発

CNFの使用量が見込める用途探索

CNFの使用量を増やすために、CNF特有の機能を扱いやすい形態で提供可能となるCNF複合素材の開発を進めており、新しい用途の可能性を探索しています。

CNFと天然ゴムの複合素材

CNFを複合することにより補強効果(硬さ)と伸びの両立に成功し、石油由来の既存補強材であるカーボンブラックをバイオマスに置き換えた新規ゴム素材としての可能性を見出しました。将来的にはCNFの使用量が見込めるタイヤ用途への採用を見据え、開発・実用化を進めていきます。

用途に適したセルロース素材の提案

元来セルロースが持つ機能の効果的な活用

強度を中心とした自動車用部材などは、顧客のニーズに併せて低コストで取り扱いやすいセルロース製品の提供を試みています。

セルロースマットとセルロース樹脂ペレット

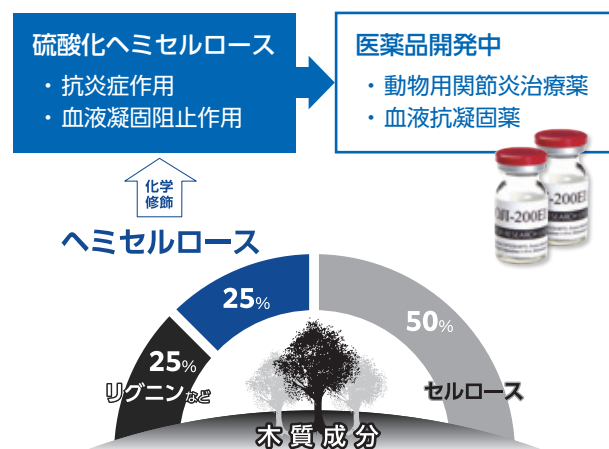
セルロース(パルプ)を補強繊維とすることにより、石油由来のプラスチック使用量を最大70%削減することができます。従来のプラスチックに比べ、成形体は変形に強く割れにくいことが特長です。今後は自動車部材などでの実用化に向け、製品開発を進めていきます。

メディカル&ヘルスケア ～未来の医療を見据えた新たな領域への試み～

木質資源からの創薬

「硫酸化ヘミセルロース」の医薬品開発を通じて人や動物の健康への貢献を目指しています。硫酸化ヘミセルロースは木材の主要成分の「ヘミセルロース」から得られる化合物で、抗炎症作用や血液凝固阻止作用などが確認されています。また、この化合物は世界中で使われている動物由来医薬品のヘパリンと類似しており、この医薬品を木質由来に置き換えることにより、多様なニーズへの対応が期待されます。

現在は、動物用関節炎治療薬として先行申請を進めており、動物薬製造販売業許可も取得しました。今後は、ヒト用の医薬品にも展開し、木質由来という特性を生かした医薬事業の構築を進めていきます。



高品質な国産漢方原料を安定供給

薬用植物は、医薬品（主に漢方薬）や化粧品、食品等に幅広く使われている日常生活に欠かせない植物資源です。しかし、多くは輸入の野生品に依存し、国産化が求められています。当社は、薬用植物の中で最も使用量が多い「カンゾウ（甘草）」について、林木育種技術を活用した栽培技術の確立に成功し大規模栽培に取り組んでいます。



「王子の森」での取り組み

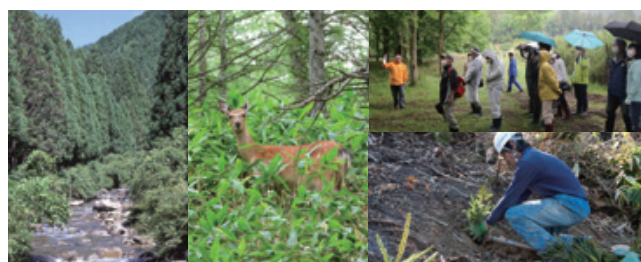
森林は、木材の生産に役立つばかりだけではなく、自然や人にとってかけがえのない機能を備えています。水を育み、きれいにする力。二酸化炭素を吸収・固定して地球温暖化を防ぐ働き。多種多様な生物を育む役割。さらには、わたしたち人間に癒しを与えるといった極めて多面的な機能を有し、わたしたちの生活とも深くかかわっています。

当社グループは、「木を使うものは木を植える義務がある」との考えのもと、木を植えて、育てて使い、また木を植えるという持続可能な森林経営に取り組み、森林が持つ多面的な機能の維持向上を図っています。

また、国内外において、希少動植物の保護育成にも取り組み、2022年には環境省主導のもと発足した「生物多様性のための30by30アライアンス」へ参加しました。さらに本年9月には世界の森林関連企業による新団体 ISFC (International Sustainable Forestry Coalition) の設立メンバーとして参加しました。

当社グループは、長年培ってきた森づくりの技術を活かし、自然環境や生態系、地域社会に配慮しながら、豊かな森を育み続け、希望あふれる地球の未来の実現に貢献していきます。

森林の有する多面的機能と生態系サービス



株主優待のご案内

株主の皆様からの日頃のご支援に感謝し、下記の2つの株主優待制度を導入しています。

詳しくは、当社ホームページをご覧ください。

<https://investor.ojiholdings.co.jp/ja/ir/stock/benefit.html>



内容	基準日	株式数
当社グループ製品カタログギフト(王子ネピア カタログギフト)	毎年3月末	1,000株以上・半年以上継続保有
植林活動応援イベント『Stop地球温暖化 いっしょに育む“森の力”』	毎年9月末	5,000株以上保有

植林活動応援イベントの状況(2023年5月から8月実施)

「王子の森」へ株主様からのメッセージをお届け



「王子の森」で株主様向け植樹会を開催



静岡県/朝霧山林 北海道/苫小牧山林

王子ネピアのご案内

王子ネピアは、環境に配慮した製品を提供する「環境価値」と、肌触りや快適な使用感を提供する「生活・感性価値」の2つの提供価値を軸に、「人々の暮らしと環境によりそう企業」を目指し、消費者の皆様へ支持される製品づくりに取り組んでいます。



プレミアムソフトティッシュ



プレミアムソフトトイレットロール



鼻セレブティッシュ



鼻セレブ洗顔専用



ソフトパックティッシュ

王子、都市対抗野球大会でベスト4に

王子硬式野球部は、本年7月に東京ドームで開催された第94回都市対抗野球大会に出場しました。2004年以来の日本一を目指しチーム一丸となって戦い、決勝戦進出は逃しましたが、2015年以来8年ぶりのベスト4に進出し大会を終えました。熱いご声援をありがとうございました。また、ベスト4進出の原動力の一人である高島泰都投手が本年10月開催のプロ野球ドラフト会議において、オリックス・バファローズから指名を受けました。今後のさらなる活躍を期待しています。



高島投手

新テレビCM 放映のお知らせ

当社は、モデル・タレントのトラウデン直美さんを起用した新たなテレビCM「おどろきを作る、時代を動かす、命をまもる王子ホールディングス」篇を、本年10月より全国放映しています。

当社グループのグリーンイノベーションや森林資源の豊かさをテーマに、今までにない新しい「OJI」を表現しています。



放映時間 (1) 毎週日曜日21:00から放送中のテレビ朝日「サンデーSTATION」番組内
(2) 毎週月曜日～金曜日5:45から放送中のテレビ東京「Newsモーニングサテライト」番組内
放送エリア (1) テレビ朝日系列全国ネット、(2) テレビ東京系列

会社概要 (2023年9月30日現在)

会社名	王子ホールディングス株式会社
本社所在地	〒104-0061 東京都中央区銀座四丁目7番5号
創業	1873年(明治6年)2月12日
設立	1949年(昭和24年)8月1日
資本金	103,880百万円
連結従業員	38,021名
証券コード	3861
ホームページ	https://www.ojiholdings.co.jp/

株式事務についてのご案内

株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先	電話 0120-782-031 (フリーダイヤル)

